幼・幼保連携型

令和6年度　自己評価書・学校関係評価書

令和7年3月12日

真庭市立天の川こども園

園 長　山本 久美子　印

１．天の川こども園の教育保育目標

〈保育及び教育目標〉

様々な環境に進んでかかわり、いきいきと生活する子どもの育成

○心も身体も元気な子ども

○自ら考え行動する子ども

○みんなと仲良くする子ども

〈めざす天の川こども園像〉

　〇園児が行きたいこども園

　〇保育教諭が働きたいこども園

　〇家庭・地域が通わせたいこども園

２．本年度の重点目標（課題）

〇今年度研究テーマ「　伝わる安心感を求めて　」

～　様々な人との関わりの中で　～

・園児一人一人の発達を理解した保育教諭が、信頼関係をもとに、ゆっくりと発

 達を見守りながら生きる力の基礎を培う。

・身近な環境に興味関心を持って粘り強く関わり、自らの遊びを友達と一緒に振

　り返って、意欲的に学びに向かう力を養う。

・保育教諭が養護性をもって園児を支え、園児は自己の気持ちをコントロールし、

　相手を思いやる対話的な力、人と関わる力を養う。

〇一人一人の心に寄り添った保育・教育の充実を図る。

　〇天の川タイムを計画的にもち、異年齢児が交流する場をつくる。

　〇小学校の児童と園児、職員交流の場をもち、安心して就学できる関係をつくる。

　〇地域の方と交流し、故郷の良さや人の温かさを感じられる郷育をする。

　〇家庭との連携を密に個々の発達に応じた援助をし、相談しやすい雰囲気づくり

　　に努め、保護者が子育ての喜びを実感できたり共通理解のもと共に成長できた

　　りするように子育て支援をすすめる。

　〇要支援・要保護家庭に対して関係機関と協力し、情報交換や見守りを続けなが

　　ら、必要な支援や援助を行う。

３．園評価の個別評価

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価指標 | 考　察 | 園総合評価 | 評価委員評価　　　（学校評議員評価） |
| 教育課程・指導計画 | 園児一人一人の発達を理解し、園のテーマである「伝わる安心感をもとめて」をベースに保育教育を展開する努力をした。特に遊びの環境作りについては、話し合いを都度重ねていった。 | ３ | ３ |
| 行事 | 発達段階を捉え行事の在り方を見直し２歳児の運動会発表会は、参観日でのごっこ発表とした。保護者理解にも努めている。 | ３ | ３ |
| 組織・運営 | 園長、主任、３上３未それぞれのリーダーが、「もっとよい保育ができるはず」と信じて、自らの保育を見直し続けることの大切さを、園全体で共有できた。 | ２ | ３ |
| 学級経営 | 園の教育保育目標を概ね理解して、園児と心を通わせながら生活や遊びを楽しむことができた。 | ３ | ４ |
| 特別支援教育 | 園児理解と共に保護者ニーズを理解することの難しさを感じることがあったが、その都度、誠意を持って対応するよう努めた。関係機関とのケース会などは、積極的に行うことができた。 | ２ | ３ |
| 安全管理・保健指導 | 不審者対応、心肺蘇生についての研修を受け、危機意識をもつよう努めた。園入口について、保育用具の使い方についてなどの想像力を発揮しながら保育をしていくことを改めて見直していく必要性も感じた。 | ３ | ３ |
| 研修（資質向上） | 園で、保育セミナー（公開保育）を受け、保育の基礎、現在の園児に必要な関わりなど細かい視点で指導をいただき、改めて基礎を学ぶことができた。 | ３ | ３ |
| 情報提供・保護者・地域との連携 | コドモンによるタイムリーな情報提供に努めた。後援会役員を含む保護者、地域の方とも良好な関係性を保て、様々な園運営を助けていただいている。 | ３ | ４ |
| 小学校との接続・連携 | 天津川東両小学校との合同研修の中で、初めて園の遊びを可視化して伝えた。情報を共有し合い、よりよい接続に繋げるために、来年度は、保育に参加していただき、学びに繋げる計画もあり、今後の新たな連携に努力したい。 | ２ | ３ |
| 子育て支援 | 保護者が必要とした時に安心して相談してもらえる関係づくりに日々努力した。 | ３ | ３ |
| 食育の推進（給食） | 「和食の日」には園児も出汁を味わい、保護者へもおたよりで出汁をとることの効果や大切さを栄養士が伝えた。参観日での給食参観後にはレシピの要望があった。 | ３ | ４ |
| 食事の提供（調理） | アレルギー児への除去食や離乳食提供など多岐にわたるが、安心安全でおいしい給食が提供できた。 | ４ | ４ |
| 保育教諭としての自覚と職員間の連携 | 一生懸命園児に寄り添い、保護者対応も誠実に行うことを何度も共有し､プロであるという意識がもてるように努めた。大勢の職員のいる園だが、園全体を考えて行動できる職員も多く、協力体制が整ってきている。 | ３ | ４ |

５．本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

　今年度「伝わる安心感を求めて～様々な人との関わりの中で～」を研究テーマにあげて、３歳以上、３歳未満それぞれのリーダーを中心に、担任が会議を持ち、園児一人一人の発達理解に努めながら、“やりたい”思いを育む環境構成として、コーナー遊びの充実を大切にしてきた。その環境で、粘り強く物と関わったり、自分の気持ちをコントロールして人と関わったりする力の育ちをゆっくりと見守ってきた。遊びのコーナーには、いつも同じ保育教諭が寄り添うことで、園児と一緒に遊びを展開していくことができた。遊びの中から出てくる園児の発想をつぶさに形にしていくことで､自分の思いや考えを聴いてもらえた喜びや満足感に繋がった。そして、自分を受け入れてもらう嬉しい体験を積み重ねたことで、友達のことも受け入れ、安心して自己表現をするようになってきた。

そんな園児一人一人に寄りそいながら、ゆっくり成長を見守る保育を積み重ね、保護者対応、関係機関との連携や小学校への接続なども、丁寧に対応することを心がけてきた。特に、小学校への接続は、課題も多く、まずは園での遊びのねらいを、小学校との交流会で、可視化して伝えた。特別支援教育に関する対応も含め、評価委員の方からも、「今後への期待」を込めた評価をいただくことができた。また、昨年度の反省をふまえて、今年度は、評価委員の方に、定期的なお便りや保育参観の回数を増やし、園運営を少し身近に感じていただいたり、新たな地域活動も紹介いただいたりして、地域の中にある園として、様々な交流や体験を通して園児の成長を後押しできたことは、とてもよかった。

　また、園のＩＣＴ化ということで登降園管理アプリを導入して以降、便利さと背中合わせにある対応（コミュニケーション力・笑顔・言葉遣いなど人的環境）についても、保護者から感謝の言葉をいただいたり、反対にご指摘があったりした。評価委員の方からも対応力について考える機会を与えていただき、園全体で改めて、保育教諭としての自覚についても考えることができた。

６．評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

　園児理解を元に、園児と一緒に、興味・関心に応じて遊びや環境を作り、遊びこんでいくコーナー遊びは、考えたり試したりして粘り強く物と関わる力や、思いを伝え合い一緒に遊ぼうとする人と関わる力の育ちに繋げるため、職員間でしっかりと話し合いを重ね、引き続き遊びを深めていきたい。また、遊びの体験と共に、振り返りを毎日くり返して行うことも継続できるようにして、「またしたい」と思える明日への意欲に繋げることをねらい、来年度も引き続き行いたいことの一つである。

その、園での遊びを可視化して、遊びの様子、遊びのねらいなどをわかりやすく伝えることに努め、就学先の小学校との連携をさらに深いものにしていきたい。

　デジタル化のすすむ世の中において、変わらず丁寧な対応が求められる保護者対応や、送迎時のコミュニケーションなど、保育教諭としてあらためて、改善に努めることを職員間で共有することができた。笑顔で挨拶をすること、しっかりと対話をすること、わかりやすく説明すること、相手の立場になってみること、など基本に返って、保育教諭として自覚をもち、安心できる人であるように努め、来年度に向かいたい。